

文京区アカデミー推進計画 | 第1回協議会

アカデミー推進計画の概要や課題について

■アカデミー推進計画とは

1. 現行計画の目標

アカデミー推進計画は、生涯学習・スポーツ・文化芸術・観光・国際交流の5つの分野にわたる施策について、「区内まるごとキャンパスに—「文の京」、豊かな学びと交流を楽しむまち—」を基本理念として、次の3つの目標を掲げています。

- 目標1 豊かな時間を過ごせる環境づくり
- 目標2 交流を通じた新たなコミュニティの創造
- 目標3 多彩な連携によるネットワークづくり

2. 現行計画の施策体系

現行計画は、生涯学習・スポーツ・文化芸術・観光・国際交流の5つの分野ごとに3～4つの分野別目標が立てられています。

(1)生涯学習

- ① いつでも、どこでも、だれでも学習や活動ができる機会の提供・充実
- ② 一人ひとりの学習や活動を支えるための情報提供、相談体制の整備
- ③ 区民・団体の主体的な活動の支援

(2)スポーツ

- ① スポーツのきっかけづくり
- ② スポーツを楽しむ環境づくり
- ③ スポーツ観戦の魅力向上
- ④ スポーツ指導者の育成

(3)文化芸術

- ① だれもが文化芸術に親しむことのできる機会の充実
- ② 文化芸術活動を豊かにするための情報提供、相談体制の整備・充実
- ③ 「文の京」の文化や歴史を未来に伝える仕組みづくり

(4)観光

- ① まちあるきを中心とした資源の発掘・活用・創出
- ② まちあるきや交流のための環境づくり
- ③ 観光まちづくりのための情報発信
- ④ 観光まちづくりのための人材育成と体制づくり

(5)国際交流

- ① 国際理解を進める機会づくり
- ② 国際交流を進める機会づくり
- ③ 外国人が快適に暮らせる環境づくり

■関連する計画

1. 文京区の計画

○文京区基本構想(平成22年度策定)

- ・平成32年度までの10年間の区政運営の基本的な指針や政策を示す行政計画
- ・10年後の将来都市像「歴史と文化と緑に育まれた、みんなが主役のまち「文の京」」
- ・アカデミー推進計画の5分野における将来像

生涯学習…いつでも、だれでも、自分に合った「学び」に出会えるまち
文化振興…「文の京」の文化や歴史を伝承し、創造する、心豊かで潤いのあるまち
スポーツ振興…だれもが、いつでも、安全にスポーツに親しめるまち
観光…何度も訪れたい、魅力とおもてなしの心あふれるまち
交流…交流の輪を広げ、互いの魅力を高め合うまち

○観光ビジョン(平成21年度策定)

- ・平成31年度までの10年間の観光振興の取り組みを示す計画
- ・来訪者にとっての「訪れて楽しい「文の京」と区民にとっての「住んで楽しい「文の京」が交流することで理念「行ってみたい、来てほしい、文の京」を実現する

2. 国・東京都の計画

○東京都スポーツ推進計画(東京都、平成25年度策定)

- ・スポーツ基本法に基づく法定計画として、「スポーツの力を すべての人に」という基本理念の下で施策を示す
- ・スポーツ実施率(週1回以上スポーツをする人の割合)が70%になることを目標としている

○東京都文化ビジョン(東京都、平成27年度策定)

- ・東京都の芸術文化振興における基本指針
- ・2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会に向けた文化プログラムの先導的役割
- ・国際的に発信する東京の文化政策の世界戦略

○東京都観光産業振興プラン(東京都、平成24年度策定)

- ・「世界の旅行者に選ばれる観光ブランド都市・東京の実現」「何度訪れても楽しめる東京の実現」を理念として、施策展開の方向性を示す
- ・平成29年度までに、訪都外国人旅行者を1,000万人、訪都国内旅行者を5.1億人とすることを目標としている

■事業実施状況から得られる課題

平成24年度、25年度における進捗状況評価に示された現行計画下における事業面の課題は、下記のとおりです。

これらをまとめると、生涯学習、スポーツ活動、文化芸術活動に関しては、①活動していない区民に対するアプローチ、②情報の集約、③地域における担い手の育成が共通する課題といえます。観光と国際交流については、個別の課題のほか、特に④2020年の東京オリンピック・パラリンピックに関連した他分野との連携を深めることが求められています。

(1)生涯学習

- ・生涯学習を行ってない区民に向けた取り組み
- ・生涯学習に関する情報の一元的な発信
- ・生涯学習について相談できる場の充実
- ・学長レベルではなく、教員や学生、組織レベルでの大学連携の推進
- ・生涯学習に協力する地域人材の発掘と育成
- ・地域人材の活躍の場の拡充

(2)スポーツ

- ・日常的にスポーツをしていない区民の参画に向けた取り組み(特に情報発信)
- ・スポーツに関する情報の一元的な発信
- ・スポーツ指導者の確保と育成(指導者の固定化・高齢化に対応した後継の育成)
- ・地域開放学校に対する関係機関の理解の促進
- ・区民のライフスタイル、ライフステージに応じた幅広いプログラムの提供

(3)文化芸術

- ・文化芸術に親しみのない区民に向けた取り組み
- ・文化芸術活動に関する情報の一元的な発信
- ・地域における文化芸術活動の担い手の育成

(4)観光

- ・各事業の優先順位をつけ、事業間での連携
- ・区の観光資源の隠れた魅力を引き出すなどの利活用
- ・若い世代や女性、外国人の視点やニーズへの意識

(5)国際交流

- ・国際理解を目的とした講座数の増加(大学連携もふくむ)
- ・外国人在住者に対するきめ細やかな生活支援

■現行計画の改善点

現行計画は、事業面のほか、計画の構成において改善点があります。区民への分かりやすさ、計画の推進・評価に際しての使い勝手の観点から、以下の3つが挙げられます。

(1)基本理念と各分野の施策の関連性が分かりにくい

現行計画では、第I部の「第2章 計画の考え方」において基本理念・計画の3つの目標・5つの行動が計画全体を貫く考え方として示されています。ただ、第II部の各論における各分野の施策では、その考え方を読み取りにくくなっています。

それを踏まえると、新しい計画では、アカデミー推進計画の基本理念と各分野の施策との関連性を分かりやすく示していくことが必要だと考えます。

(2)具体的な施策が示されていない

第II部の各論において、分野ごとに、3~4つの分野別目標が掲げられ、目標ごとに課題認識と解決の方向性が示されています。ただ、現行計画では、それらを踏まえた事業の提示が、事業(例)にとどまっています。そのため、計画に記載した事業と実際に行っている事業がかならずしも一致しない状況となっています。

5年間という計画期間を考えると、記載する事業すべてについて実施を前提することは現実的ではありませんが、新しい計画では、現在実施している事業を踏まえた具体的な事業を記載したいと考えます。

(3)計画の推進状況が評価しにくい

計画の推進状況の評価は、計画に記載された事業の実施状況に基づいて行われます。現行計画では、上述のとおり実際に実施する事業が示されていないため、計画の推進状況の評価しにくい状況にあります。

新しい計画では、具体的な事業を示すことで推進状況の評価しやすくするとともに、事業実施の効果を測るための指標を設ける等、評価のための工夫を行うことを考えています。